

2022年度 第1回組織委員会 議事録

【日 時】 2022年4月19日(火) 13:00 ~ 17:00

【会 場】 WEB会議

【出席者】 小俣副会長、中島委員長

北海道	松田	北東北	北上	南東北	大川	上信越	小井土
東関東	東	南関東	中村	東京	藤山	東海	松山
北陸	藤崎	近畿	是洞	阪神	辻本	東中国	横田
西中国	河島	四国	高本	九州北	沖田	九州南	川口

【事務局】 小見常務、金澤部長、坂部長 【議事録】事務局

【委員会の要旨(確認、決定したこと)】

1. 組織委員会運営スキームをしっかりとし込むこと。
2. 明文化したことをスケジュール化し、スケジュールに沿って展開すること。
3. 仲間づくり表彰基準の改定(増強目標時代の基準の見直しで以下の4区分としたい)
基準 : 目標+10店(10万円)、基準 : 目標+5店(7万円)、基準 : 目標+2店(5万円)、
基準 : 目標達成(3万円)

議 事

1. 小俣副会長 挨拶
21年度事業および「正会員実態調査」63.7%達成について心より感謝。集うことのない中で、代協活動に対して強い思いで臨んでいただいたことに改めて感謝。22年度第1回目の組織委員会であるが、代協活動には区切りはあるが、終わりはないのでしっかり引継ぎをお願いしたい。
2. 中島委員長 挨拶
21年度を踏まえ、今期を成功させるために総会までにやるべき宿題を落とし込み、共有し、日本全国が良い形になるよう価値ある議論をお願いしたい。
3. 理事会・臨時総会報告
中島委員長より説明。臨時総会における組織力強化については、「会員入会目標を411店とする」「会員の品質改善については代理店賠償を普及する」「本日議論テーマの長崎、福井モデルをもとに保険会社との関係を強化する」
4. 21年度取組みに関する表彰
中島委員長より「仲間づくり推進」「三冠王」について発表。
5. 代理店賠償勉強会(Chubb 鈴木部長)
テーマ:(1)賠償事故未然防止のために、(2)今後の補償
6. 仲間づくり推進(長崎モデルの全国展開)
中島委員長より「長崎、福井モデル」を説明。最大のポイントは「スケジュールを決め

スケジュールに沿って決まったことをする」こと。藤山副委員長より東京モデルについて説明。大きな組織にあてはめた場合どうなるのかを参考にしてもらいたい。

7. 各ブロック発表

<北海道>

支部例会もほぼ開催でき、セミナーも実施できた。実態調査、仲間づくりとも電話をかけまくり達成できた。連携がよくなった。非会員リストは、モデルを参考に展開したい。

<北東北>

成島セミナーをブロックとして開催し、非会員リストから岩手で入会に結びついた。年間スケジュールを策定できていないので、モデルを参考に展開したい。

<南東北>

必ず達成する意識を持つと人は動くと感じた。セミナーも委員会もなかなか開催出来なかった。コミュニティ不足である。これまで明確な計画と仕組がなかったので、きちんとモデル導入し推進する。

<上信越>

代理店賠償セミナー（2回）、成島セミナーを開催できた。仲間づくりは課題を残した。モデルを定着させることが鍵となる。

<東関東>

代理店賠償セミナーを2回開催し、各県ともフォローを確実に実施し入会につながった。埼玉代協の新風会が各県に浸透するきっかけとなった。目標未達は反省し、年間活動スケジュールとプロセスを確立して標準化することが課題。

<南関東>

委員会、イベントは計画通り実施でき、特に神奈川のセミナーは充実していた。実態調査は、全役員が一丸となり、神奈川での目標達成は圧巻であった。ブロック委員会での情報共有と資料配布に課題を残した。

<東京>

東京代協特別セミナーとして成島セミナーを実施（1040名エントリー）。実態調査は大きく動いた。仲間づくりは進捗しなかった。「形づくり」にしっかり取り組めたので次につなげることが出来た。

<東海>

仲間づくりは三重が達成するも課題を残す。ブロック内共有のあり方が課題。スケジュール化の重要性を訴求し、本来の代協活動を推進したい。

<北陸>

オリエンテーションで本部役員の支援を受けつつ良い組織スタートとなった。モデルは、一番のアイテムとして活用できる。引継ぎ後も進化させて推進していく。

<近畿>

伝統の連続三冠王を途切れさせないよう取り組んだ。実態調査は、先行した滋賀を他代協が追随し展開できた。詳細スケジュールを丁寧に作ってやっていきたい。

< 阪神 >

成島セミナー開催と非会員の動員は出来たが、入会に至らなかったことは反省。4月から大阪代協が独自のLINEグループでの友達募集を開始し、直接情報を提供する。

< 東中国 >

11/24に成島セミナーをブロック開催した。仲間づくりの進捗が悪かったが3県とも進捗した。空気が変わってきたので次期以降期待できる。島根の若手次世代部会が始動したので良い動きにつなげたい。代理店賠償セミナーは保険会社を含めた幅広く開催する。年間スケジュールを重視し共有して各県に落とし込む。

< 西中国 >

ブロックで賠償セミナーを開催し、実態調査も実施できた。ブロック内で地域差を感じており、組織委員会の運営とともにモデルを参考に引継ぎを行う

< 四国 >

実態調査は達成できた。12月に徳島でリアル協議会を開催。代理店賠償・BCPセミナーをブロックで共同開催できた。各支部との連携が課題。損保新支店長への働きかけを行う。

< 九州北 >

福岡と長崎は、自主運営出来ており、佐賀と大分が課題。4県とも組織委員長変更となるので、モデルをしっかり引継ぎ、仕組みを落とし込む。引継ぎを重視し、各県会長や会議に顔を出し、理解してもらうことを課題として取り組む。

< 九州南 >

目標を4県で達成した。セミナー開催を目的とせず、魅力ある代協、仲間づくり手段として活用し、皆で共有し展開したい。楽しい代協を作っていきたい。< 南関東 > 委員会、イベントは計画通り実施でき、特に神奈川のセミナーは充実していた。実態調査は、全役員が一丸となり、神奈川での目標達成は圧巻であった。ブロック委員会での情報共有と資料配布に課題を残した。< 南関東 >

委員会、イベントは計画通り実施でき、特に神奈川のセミナーは充実していた。実態調査は、全役員が一丸となり、神奈川での目標達成は圧巻であった。ブロック委員会での情報共有と資料配布に課題を残した。

8. グループ討議

テーマ モデルをもとに自分達ならどうするのかを落とし込み、総会までにどう運用するのかを決めること。各地に戻り自身で話す必要があり、スキームの運用差により、明らかな格差が生じることを念頭に考えること。

グループ 南東北、南関東、東海、東中国、西中国、四国

グループ 北東北、上信越、東関東、北陸、近畿、

グループ 北海道、東京、阪神、九州北、九州南

< 主な意見 >

・統一スキームをもとに報告することで、各代協役員・委員・支部長への理解を深める

事が可能

- ・ 損保会社との計画的な連携につながる
- ・ 総会後に実態調査を持参して保険会社に挨拶する
- ・ 支店長と懇意な会員と同行すること。
- ・ 文書化し、代協ごとに不足する部分を補う
- ・ 新任会長や組織委員長には、ブロックや地域担当理事からのフォローが必要
- ・ 独自の計画書はあったが、統一することで横連携がしやすい
- ・ 総会までに年間スケジュールを確認する
- ・ 一回では駄目で何度も何度も落とし込むこと
- ・ 非会員リストは生保兼業代理店リストが効果的 リスト整理は当然
- ・ 頭の中にあった形を文書化し、代協にあった内容に変えていく
- ・ 代協に協力的な保険会社社員の転勤情報を各代協間で共有する

9 . 日本代協情報提供

小見常務より、「金融庁保険課長と代協会長との意見交換会（4/28）」について説明。

10 . 中島委員長 挨拶

2年間ご苦労様でした。コロナ禍、一度も会う事の出来なかった伝説の組織委員会ですが、今までになく一体化出来たのではないのでしょうか。Zoom によるブロック組織委員会・全国一斉組織委員会オリエンテーション・正会員実態調査とリアル以上に連帯感が生まれたと自負しております。

皆さん本当にありがとうございました。最後に代協仲間づくりスキームを全国に浸透させていきましょう。

○第2回委員会開催日：2022年7月 別途決定

以 上